

社会倫理の諸問題（1）

Overview

- ・ 社会的実践の根拠としての隣人愛
 - ・ 人種・民族差別
 - ・ 身体的差異による差別
 - ・ 性差別
- ・ 諸教派・諸宗教の共存
 - ・ まとめ

社会的実践の根拠としての隣人愛

- ・ キリスト教社会倫理を基礎づける聖書の言葉
- ・ 「隣人を自分のように愛しなさい」（マルコ12:28-31）
- ・ 「隣人とは誰か」（ルカ10:25-37）
- ・ 「最も小さい者の一人にしたのは…」（マタイ25:31-46）
- ・ 「最も小さい者こそ、最も偉い者である」（ルカ9:46-48）

彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『**隣人を自分のように愛しなさい。**』この二つにまさる掟はほかにない。」（マルコによる福音書12:28-31）

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は**自分を正当化しようとして**、「では、**わたしの隣人とはだれですか**」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。（続く）

同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「**行って、あなたも同じようにしなさい。**」（ルカによる福音書10:25-37）

「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなされたら、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』(続く)

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。**わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。**』それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渇いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。**この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。**』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。(マタイによる福音書25:31-46)

弟子たちの間で、自分たちのうちだれがいちばん偉いかという議論が起きた。イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で**最も小さい者こそ、最も偉い者である。**」(ルカによる福音書9:46-48)

「普遍的な」倫理へ

- ・ 万人平等
- ・ 社会的公正
- ・ 個人の自由
- ・ 宗教的権力と政治権力の分離
- ・ 女性の解放
- ・ 非暴力と赦し

ルノワールによれば、これらの普遍的な倫理はキリスト教にルーツを持つ(フレデリック・ルノワール『哲学者キリスト』トランスビュー、2012年、76-105頁)。

「隣人」の解釈・境界設定



差別を正当化するために利用(悪用)された根拠の例

- ・ 創造の秩序 (Schöpfungsordnung)
- ・ 結婚・家族・民族・国家などの既存の社会的関係は神によって定められており、キリスト者であるかどうかを問わず、すべての人間に当てはまると考えられた。
- ・ 自然法 (the natural law)
- ・ ギリシアのストア学派に始まるが、体系化されたのは中世。自然的基準を「法」概念によって説明する。

人種・民族差別

人種と民族の違い

- 人種
 - 身体的特徴（骨格・皮膚の色・毛髪などの身体形質）を基準にしてヒト集団を区分しようとする概念。
- 民族
 - 共通の出自に由来し、言語や生活様式、宗教などを共有する集団。
 - 5000の民族が190の国家の中に住んでいる。

人種概念と遺伝学

- 集団内の多様性 > 集団間の多様性
- ヒトゲノムの解析は2003年に完了した。30億個の塩基。無作為に選んだ二人のDNAは99.9%が同じ。0.1%の違いは300万個の塩基が違うことを意味する。人間の遺伝学的類似性は他の種と比べても非常に高い。
→「人種」概念は生物学的な意味を持たない（DNAの分析によって、ヒトという種の祖先集団をたどることは可能）。
- 見知らぬ者にレッテルを貼り、**境界線**を設けることによって安心感を得たいという心理こそが「人種差別」である。（ペルトラン・ジョルダン『人種は存在しない——人種問題と遺伝学』中央公論新社、2013年、191頁）

人種・民族差別の事例

- ユダヤ人差別
- ホロコースト：ナチスの人種優生政策に起因する
- 黒人差別
 - 米国における黒人差別に対する戦い
 - マルチン・ルーサー・キング、マルコムX
 - アパルトヘイト
 - 白人、バントゥー（アフリカ黒人、人口の75%）、カラード（混血）、（後に）アジア人（インド人、パキスタン人など）に区分
 - 南アフリカは1990年にアパルトヘイトの終結を宣言



黒人解放の神学

- 公民権運動の影響を受けて、**Black Liberation Theology** が誕生する。
- 代表的人物：ジェームズ・H・コーン
- 白人中心の抽象的な神学を批判する。



黒人解放の神学の特徴

黒人解放の神学

日本における人種・民族差別の事例

- 在日朝鮮・韓国人への差別
- アイヌへの差別
- <参考>被差別部落問題
 - 身体的、言語的、文化的差異を持たないにもかかわらず生じている差別
 - 「居住地域」によって生じる差別意識

身体的差異による差別

- physically handicapped → physically challenged
- さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」（ヨハネ福音書 9:1-3）。

「触れる」こと——社会福祉の原点

さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが**深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ**、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。（マルコ福音書1:40-42）

【参考文献】木原活信『「弱さ」の向こうにあるもの——イエスの姿と福祉のこころ』いのちのことば社、2015年。